

3. 活動内容

(1) 1年間の主な活動内容について記載願います。

祭り寿司から和食を考える(2) 継続 (地域と伝統文化)

研究動機

学校における食に関する指導は、学級担任を中心として、給食の時間において学校給食そのものを生きた教材として活用した指導が行われているほか、教科指導や学級活動、「総合的な学習の時間」など、学校教育活動全体の中で広く行われています。

1. 子ども達を持っている「和食」へのイメージ

6年生のアンケートより

○和食は、からだに良いものだし、世界中で和食がはやっている。

2. 和食を学習する理由

手づくりの料理が家庭から減っている。

料理を手づくりしない家庭が増えているとすれば、日本の伝統的な食文化を継承していく上での「和食」の大切な要素を子ども達に伝える機会が減っています。その意味でも「和食」の手づくりの料理を学習することが必要になってきます。本年度も継続して食の研究を進めていく。

3 和食を中心とした包括的な授業の構築

以上の理由から、「和食」を学習する必要があるが、こときまって「和食」という単元がどの教科・領域にあるわけではない。

主に考えられるのが「家庭科」「総合的な学習」などであろう。これらの教科・領域を包括的に扱い「和食」という学習を扱っていく必要がある。

(1) 家庭科の中の「和食」の扱い

- ☆**伝統的な食事**に欠かせないごはんのみそ汁の調理をする。
- ・米やみその特徴を調べ、理解させる。
- ・水の分量や加熱時間を考えてごはんを炊いたり、実の組み合わせや切り方、加熱のしかたを考えてみそ汁を調理するようにする。
- ※**特にみそ汁について日本の伝統「和食」のだしに注目させる。**
- 本年度は、特にだしの授業を中心に行った。

(2) 総合的な学習としての「和食」の扱い

- ・和食についてテーマを持って調べる。
- ☆**だしの大切さについて**
- ・郷土料理としてのまつり寿司(太巻きすし)をつくる。

考察

本年度は、和食の根幹であるだしの大切さについて子ども達が学習した。だしのとり方、何からだしをとるのかなどを栄養士とともに学習することができた。来年度は、3年目にあたるのでまとめとしての和食に取り組んでいきたと考えている。

(2) 活動時間について（下記から選択して下さい。）

- 通常の授業時間を使用（総合的な学習の時間を含む）
- 時間外活動の時間を使用
- ユネスコクラブの活動として実施
- その他（）